

審査の結果の要旨

氏名 武村雪絵

本研究は、新しく病棟に配属された看護師が、その病棟の価値観の具現であり病棟に蓄積された知識として存在する組織ルティーンを受け継ぎつつ、組織ルティーンにない実践を行うまでの過程を明らかにするために、グラウンデッドセオリー・アプローチを用いて看護師 49 名を対象に面接と観察を行い分析したものであり、下記の結果を得ている。

1. 看護師の熟達を表す新しい概念として、「しなやかさ」、すなわち、そのときその場の状況に応じて幅広い選択肢から患者アウトカムに資すると判断する行動を選択する柔軟な実行力と、自分や組織にとっての当たり前を見直し新しい実践や意味をもたらす柔軟な思考力とを併せ持つさまが同定された。
2. 「しなやかさ」の程度は、「実践のレパートリーを増やす」「実践を拡張・深化する」程度が決定し、前者は「組織ルティーンの学習」「組織ルティーンを超える行動化」「組織ルティーンからの時折の離脱」という 3 つの変化によって高められ、後者は「新しいルールと意味の創出」によって高められることが示された。
3. 「組織ルティーンの学習」は、新しく病棟に配属された看護師が自らの実践を組織ルティーンに近づけていく変化であり、これによって、その病棟で必要なタスク遂行力・問題対応力を獲得することが示された。この段階では組織ルティーンへの疑問や葛藤の処理は、実践知として病棟に蓄積された知識や技術を効率よく獲得するための現実的で有効な手段であり、適応過程と捉えることができた。
4. 「組織ルティーンを超える行動化」は、組織ルティーンへの疑問や葛藤を原動力に組織ルティーンと異なる行動を起こし、行動の結果を確認しつつ、自信を深めながら実践を継続し拡大する変化であった。この変化は、看護師が自律性や問題解決思考を獲得するものであり、専門職的発達という観点では大きな前進と考えられた。しかし、熟達度の指標として従来用いられてきた行動選択の迅速性や自動化という点では、「組織ルティーンの学習」の終盤にある看護師の方が優れていることもあるとわかった。
5. 「組織ルティーンを超える行動化」には、前段階としてある程度「組織ルティーンの学習」を終える必要があったが、「組織ルティーンの学習」の促進要因は、一方で「組織ルティーンを超える行動化」の阻害要因となることが示された。「組織ルティーンを超える行動化」を促すには、「組織ルティーンの学習」の終盤に、組織ルティーンに対する疑問や固有ルールを再意識化させ、チームの一員になることから患者アウトカムに関心を移し、チームとの調和を一時的に乱してでも行動する覚悟を持たせるプログラムが必要であることが示唆された。
6. 「組織ルティーンからの時折の離脱」は、その病棟で経験の長い看護師の一部に見

られた変化で、妥当でないと判断する状況で組織ルティーンから逸脱する行為を選択する変化であった。経験を積んだ看護師が患者の状態を見極めながらそのときその場で最良のケアを選択しようとする行為であり、最適解を得られる可能性にかけて組織ルティーンを実行することで得られる恩恵を享受しない選択であるため、慎重な判断が求められることが示された。

7. 「組織ルティーンの学習」「組織ルティーンを超える行動化」「組織ルティーンからの時折の離脱」は、個人や病棟が既に持つルールが参照されるため、やがて変化は終了し、固有の実践スタイルとして安定することが示された。
8. 「新しいルールと意味の創出」は、固有の実践スタイルを築いていた看護師が組織ルールや固有ルールを根底から問い直し、組織ルールにも固有ルールにもなかった新たな実践を行ったり、すでに行っている実践に新たな意味を見出したりする変化であった。この変化によって、看護師は絶え間ない自己革新が可能となり、「しなやかさ」を獲得することが示された。
9. 「新しいルールと意味の創出」には、組織ルティーンを超える実践ができる力が必要だが、「組織ルティーンを超える行動化」を経験した看護師は固有のルールに自信を強めており、それらを根底から見直すことは容易でない。「新しいルールと意味の創出」を促すには、当たり前を揺るがす体験、特に、既に「新しいルールと意味の創出」を経験した看護師の実践や姿勢に直接触れ、感化を受ける機会を提供することが有用だと思われた。
10. 看護師の「しなやかさ」をもたらす、「組織ルティーンの学習」「組織ルティーンを超える行動化」「組織ルティーンからの時折の離脱」「新しいルールと意味の創出」という 4 つの変化を段階的に経験させることが、看護師の発達支援に有効だと考えられた。

以上、本論文は看護師の熟達を表す新たな概念として「しなやかさ」を同定し、看護師が「しなやかさ」を獲得する過程やその促進要因を初めて明らかにしたものである。状況把握と対処方法の選択の迅速性や自動化を中心とする従来の看護師熟達研究になかった新しい視座をもたらし、看護師の発達段階の評価および発達支援に重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値すると考えられる。